

## 2025年度特に優れた業績による返還免除 よくある質問集

昨年度までに皆さんから工学部・工学研究科教務課学生支援係に寄せられた質問集を、以下Q & A形式で作成しましたので、各自確認してください。

今後、質問項目を追加がある場合は、学務情報システムに掲載しますので、最新情報に注意してください。

Q 業績を証明する資料について、英語で作成した論文等は英語で提出してよいですか？

論文要旨は、返還免除申請のために再度作成する必要はありますか？

A 業績を証明する資料は英語・日本語共に提出可です。学位論文の業績資料は4ページ以内となっておりますので、4ページ以内になるよう抜粋してください。

Q 学会発表論文が複数ある場合、業績を証明する資料としてそれぞれ別に表紙を付けてゼムクリップでまとめるのですか？学会発表論文として一つにまとめるのですか？

A それが別の論文であれば、別にしてください。つまり、それぞれの論文が別の学会の、別の種類の論文であれば、それぞれ別に表紙を付けてゼムクリップでまとめてください。

Q 業績を証明する資料リストで、学会が今年度中に開催予定のものや、論文が今年度中に掲載予定のものは、業績としてよろしいですか？

A 未開催、未発表のものでも、今年度中に開催され、発表されるものであれば、業績として差し支えありません。資料として、自分の氏名、開催年月日が明記された学会のプログラム等の写し等、又は論文掲載が決まった旨が記された通知文の写し、メール文をプリントアウトしたもの等(氏名、日時が確認できるもの)及び論文の要旨を提出してください。なお、今年度中に学会誌への掲載が決定したが、現段階において掲載号が未定である場合も、今年度の業績に含めますので、上記と同様の資料を提出してください。

ただし、論文執筆中で未投稿の場合は業績として提出できません。

Q 現在博士前期(修士)課程の者ですが、学部時代の業績は免除申請の業績として認められますか？

A 博士前期(修士)課程は博士前期(修士)課程で挙げた業績、博士後期課程は博士後期課程内で挙げた業績のみが、免除申請の業績として認められます。ただし、化学・バイオ系の学生は所属専攻の指示に従ってください。

Q 連名としての業績も、免除申請の業績となりますか？

A 連名であっても、それが自分の業績であれば、免除申請の業績として認められる可能性があります。グループ等の業績であっても、自分の業績ということが確認できる資料を添付してください。

Q 「研究又は教育にかかる補助業務」の添付資料として、TA・RAの労働条件通知書を提出する予定ですが、原本を提出する必要がありますか？

A 労働条件通知書や勤務証明書は写しで結構です。

Q ゼムクリップどめした業績資料1つにつき、「業績を証明するリスト」に資料名を1行記入するのですか？また、業績資料の並び順とリストの並び順は一致させるのですか？  
リストが複数枚になった場合は、資料番号は続けて付番するのですか？

A はい。ゼムクリップどめした業績資料1つにつき、「業績を証明するリスト」に資料名を1行記入し、業績資料の並び順とリストの並び順は資料番号順に一致させてください。  
資料名のタイトルが長い場合、リストは複数の行にまたがって記入するのではなく、1つの行内（セル内）で改行して記入してください。

リストが複数になる場合は、続けて番号を付番してください。（1枚目に10番まで記載した場合、2枚目は11番から付番）

Q 申請書、業績を証明する資料表紙や資料リストはパソコンで作成するのですか？

A 以上の様式は工学研究科ホームページにデータで掲載しておりますので、パソコンで作成してください。

エクセル様式のものについては、文字の見切れに注意してください。

Q 「教育研究活動等の業績項目」の中で、「大学院設置基準第16条に定める特定の課題についての研究の成果」及び「大学院設置基準第16条の2に定める試験及び審査の結果」とありますが、どういう意味ですか？

A 16条では、適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格することをもって修士論文の審査に代えることができる。と定められています。  
16条の2では、「一 専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力並びに当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養であって当該前期の課程において修得し、または慣用すべきものについての試験 二 博士論文にかかる研究を主体的に遂行するために必要な能力であって当該前期の課程において修得すべきものについての審査」に合格することをもって、修士論文の審査に変えることができると定められています。しかし、本研究科のほとんどの者が修士論文の審査により博士前期課程修了となります。よって、修士論文の審査により博士前期課程を修了する者は、「申請書（様式1）」の「2」及び「3」は業績に含めないでください。

Q 今年度中に退学又は奨学金を辞退するかどうか、現在検討中です。書類提出締切日まで決定できない場合、どうすればよろしいですか。

A 今年度退学又は奨学金辞退の可能性があり、特に優れた返還免除への申請を考えている場合、提出締切日までに書類を提出してください。決定した時点で速やかに学生支援係へ申し出てください。

Q 返還誓約書を提出済みであるかわかりません。

A 平成22年度以降採用者は、採用時に返還誓約書を提出しています。

Q 同じタイトルで学会での発表と研究論文があるが、業績は別々にしてもよいですか。

A 実際に業績として認めるか決めるのは審査会のため、両方認められるかはわかりませんが、別々の業績として提出していただいて結構です。

Q 返還免除申請期間終了後に、賞を受賞することがきました。申請期間終了後ですが、業績を追加することはできますか。

A 原則、申請期間終了後は業績を追加することはできません。

Q 査読が終わっていない論文は業績として追加することはできますか。

A 実際に業績として認めるか決めるのは審査会のため、認められるかはわかりませんが、業績として提出していただいて結構です。その場合、申請書の業績欄の発表日には査読中と記載し、査読中であることがわかる資料を添付してください。

Q TA・RAをやっていたのですが、業績を分けて申請してもいいですか。

A TAとRAは職種が異なるため、別々の業績として申請していただいて結構です。

Q 複数科目のTAをやっていたのですが、別々の業績として申請してもよいですか。

A 同じ職種（TA）を複数行った場合、一つの業績として申請してください。なお、都市・建築学専攻および土木工学専攻の学生の場合は、複数のTAを行ったことが分かるように複数の労働条件通知書等を添付してください。